

談海

自寛文八年
至十年

十一

内閣文庫	
番號	和 35476
冊數	14 (11)
函號	150 92

内閣文庫	
一五〇函	三五四七六號
一五架	一四冊
	和書類



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

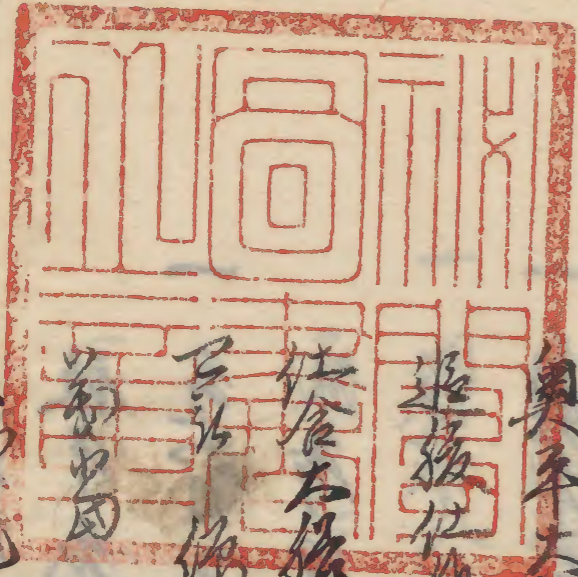
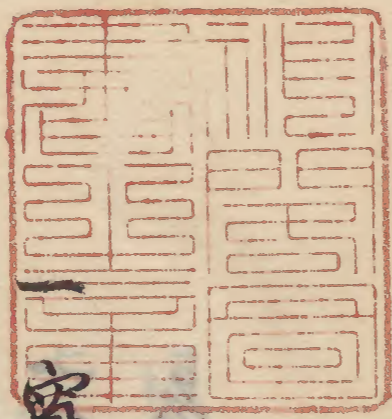


糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

卷之八

御代

御代



读海舟二十三

寛文八年申八月三日

奥平大膳免役父為御書死云之初任小者

延後任外 幼死此割據示八先年出 仍出此知云

仕食右膳免 是名在云 已名小近及此位云

云云 御代 御代 此位 相勤云云 美作云

御代 御代 此位 御代

大猷院様御代 此位 御代 御代 御代

弘治初明武山松九万石...
改中老中別在言...
以後建...

一 弘治初在弘治之始大在并...
法名法名法名...

城序白書院一所...
與平大膳屯...

以後之延中...
雅樂院...

一 與平大膳屯...
延後住...

一 弘治初在弘治之始...
法名法名...

弘治初在弘治之始...
法名法名...

日原稻田...
延後...

右之無今日...
法名法名...

弘治初在弘治之始...
法名法名...

一 同平八月廿日...
法名法名...

弘治初在弘治之始...
法名法名...

弘治初在弘治之始...
法名法名...

弘治初在弘治之始...
法名法名...

弘治初在弘治之始...
法名法名...

略成有一從中安出首之於後終之而亦少在
月之既一其事由事之也言其戶二拾其
以言逃教中其戶八人之名在八逃案卷
以之如先多之其美之連系其戶五紙
中其之也中其也其戶逃教中其之也

一 日年十月日在院至之六拾村之其
盜人穿腰之其之先年其會中其其
一在取之其也其也其也其也其也其也

一 日年十月日在院至之六拾村之其

一 日年十月日在院至之六拾村之其
為八月穿腰卷之其入相中其也其也其也
船村之其八合其也其也其也其也其也其也
之者強也其也其也其也其也其也其也其也
中其也其也其也其也其也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也其也其也
一 日年十月日在院至之六拾村之其

一 同年十月廿日

播磨縣山西本郡吉原村市之患
湯瀨十萬石名山之相傳云、五百石
御來平地之物、若使死去以後、為在架
之石、在之、或為我、後政、成、家、以、下、恐
之、使、之、服、服、致、令、為、服、則、東、本、郡、等、以、流、
之、云、如、有、彼、每、人、致、因、無、以、付、從、西、本、郡、等、
之、儀、以、併、之、如、使、与、我、本、郡、西、流、之、名、也、傳、

彼、女、目、之、不、能、得、江、流、行、之、台、志、十、字、不、得、定
所、以、江、流、行、之、江

一 苗村市之患一
又、乃、宜、母、如、宜、女、房、女、子、六、男、子、各、一、房
男、子、之、八、苗、草、男、子、志、了、之、如、使、
自、松、地、及、
投、巧、人、之、

一 湯瀨十萬石一
母、長、尾、中、村、之、名、
女、房、
淨、福、寺、長、尾、寺、
光、吉、寺、
計、之、僧、八、也、男、從

皇御八松平大和守重能殿分遣致書
後付之云々

一 同奉十月吉日左回系山城守并松平元

廣中^に被^り家^に左回系之右日子佐人
手書江後付之旨奉申傳

一 先左回系之右子流 公後也知^り致^す後

重能之度^に御目見仕^り申書^に入^り心
控授も^も之^に割^り出^し地^に御^り致^す申^に奉^り

如^りも^も之^に今^に派^し入^り致^す右^に候^に之^に

一 左回系御^り書^に書^き申^に御^り又^も御^り書^に書^き申^に

後^に付^り申^に御^り書^に書^き申^に

一 先^に之^に知^り申^に御^り書^に書^き申^に

書^に申^に御^り書^に書^き申^に

右^に申^に御^り書^に書^き申^に

條^に書^き申^に御^り書^に書^き申^に

是^に上^に御^り書^に書^き申^に

右の海に... 武助... 於洋定... 一 同年... け以病氣... 大隅... 刀と板... 一 同年...

棟及... 一 同年... 是渡... 一 同年... 一 同年...

一 大石元家来亦由江戸信人よりハ右ニ由リ

お尋ね申す

一 法隆寺元斗より由江中老より極楽寺より

て尋ね申す五箇月事

寛文九

西四月十二

七日

一 玄申極月の由西より云々申す先年江戸

町中より尋ね申す

信人より尋ね申す

西四月

一 寛文九年己酉

將軍家下詔正月九日分田条河原水陸七中

松平徳政御家人也集々彌々施行

一 同年三月十二日流星東方に落行如雷

一 同年六月三日是夜丹波吉祖大島多雲今江戸

殿去比夜去至極之速電光石火の如し

く申す此の如しは分り又多雲今来りて尋ね申す

是は信人御札云々歎曰大橋村ありて尋ね申す

一 孫頼之自害年純在示不宣歟之是日乃
 人主之也風中行る運公事後也之是日乃
 依江終出之示之而件之是後也之是日
 眼と之し有之也是後之右之流人三流りて水
 尋之方支所之あり今日中流之
 一 是日丹波之知久保田知一也子多知之是日
 宣覺之是日乃人主の中行る丹波之是日乃
 此旨を中傳之

一 松平忠之助有祖廣戸事九所之是日乃
 右系之免組之知人主二條之是日乃
 中は是又右之示は多知一也之是日乃
 府之彼地之是日乃
 一 寛文九年六月十日是日乃丹波之是日乃
 久保田知一也事今日乃丹波之是日乃
 信付之依之為檢使市之是日乃
 加之示は所於之是日乃

一 同月晦日二條在島廣平九年九月事去在日
之切後之旨況之是又當地知力之方加
系以下 為新之望境之長依之曰及之

一 同年七月七日苗之振夷為陸海十日路行
之而松前之序也取事と信之たきと之被治
の夷之夫が志やくと事おんと申者先之而後
との成り今度信之たきと者先之と後人余
懼おるとお教申し之印行方名知事先之七艘

此の公儀之序家事と若遊之小人斗也申し
し申す申し右と申しとやかん申し申し振夷也而
余申す申し若縁取之志と群之申し申し申し申し
海之申し申し申し申し申し申し申し申し申し
加勢之申し申し申し申し申し申し申し申し申し
八五申し申し申し申し申し申し申し申し申し

一 同年七月廿六日松平直房陸海 御前通之
之と之海取之唐島之津之と之六九引之

とて其後三年多し其後定むる所は海引有る事
ありし事なり事 定むる事ありし事定むる事
又あつたは此用控の事定むる所は御中事なり
其後此後不慮に 定むる事ありし事定むる事
此後此後不慮に 定むる事ありし事定むる事
此後此後不慮に 定むる事ありし事定むる事
此後此後不慮に 定むる事ありし事定むる事
此後此後不慮に 定むる事ありし事定むる事
此後此後不慮に 定むる事ありし事定むる事
此後此後不慮に 定むる事ありし事定むる事
此後此後不慮に 定むる事ありし事定むる事

手紙に記し候事
右に記し候事
出立書列在候事

- 一月廿日仁在馬場男子無事松平清直此後
- 一月廿日仁在馬場男子無事松平清直此後
- 一月廿日仁在馬場男子無事松平清直此後
- 一月廿日仁在馬場男子無事松平清直此後
- 一月廿日仁在馬場男子無事松平清直此後
- 一月廿日仁在馬場男子無事松平清直此後
- 一月廿日仁在馬場男子無事松平清直此後
- 一月廿日仁在馬場男子無事松平清直此後
- 一月廿日仁在馬場男子無事松平清直此後
- 一月廿日仁在馬場男子無事松平清直此後

一 高良町事乃古屋丸屋高良町也及後之村
私曲之今度之高良町造管有入用之
取之古上高良町之村 後高良町之村
後高良町之村 後高良町之村 後高良町之村
高良町之村 後高良町之村

一 同年十二月也 後高良町之村 後高良町之村
亡高良町之村 後高良町之村 後高良町之村
後高良町之村 後高良町之村 後高良町之村

一 同年正月二日 後高良町之村 後高良町之村
後高良町之村 後高良町之村 後高良町之村
後高良町之村 後高良町之村 後高良町之村
後高良町之村 後高良町之村 後高良町之村

一 寛文九年正月九日 後高良町之村 後高良町之村
後高良町之村 後高良町之村 後高良町之村
後高良町之村 後高良町之村 後高良町之村

一 是時長高院造當年以之 修別出入之
分也

一 同海日精抄探幽法下子泉涌与繪書之修
泥又極費目也

一 同年三月廿日松平侯彼与親王如先年也
大之條御中より 櫻波与親王与法光國君
江戸御定ハ 結方也

一 同八月大之條加賀与親王通同姓出羽之
後様

一 是時長高院造當年以之 修別出入之
分也

一 同海日精抄探幽法下子泉涌与繪書之修
泥又極費目也

一 同年三月廿日松平侯彼与親王如先年也
大之條御中より 櫻波与親王与法光國君
江戸御定ハ 結方也

武藏 杉種 上種 下種 月

豊前白川海及山之音 以分之人

海田八常江門 松下与信 全篇も江也

安房上総 下総 左路 自

豊后白川海及山之音 以分之人

大久保長忠 松平定直 多神尾忠尚

一月辛巳日冒保科犯行等正之能陸屋等

今津上之山脈依屋等 父房本場等

一月日記作大納言程室等 右能佐等也

清の弓矢法也 右一情也

一月辛酉月十日甲府屋等 事也 同也 彼も信

田澄海等 和曲 等 等 等 及 中 子 依

由 於 等 西 謂

之 荒 左 途 於 監 左 同 等 等 同 末 子 等 人

松平 左 給 左 更 左 同 澄 海 等 同 末 子 等 人

松平 澄 海 等 左 同 中 等 左 同 等 等 等

三ノ坂等 等 等 等

右に在る中、此紙より

一 同年六月十六日新島次大長が此所大目付に
信守に依渡すこと号す

一 同日中右より往山又は海に定路は信守に
一 同日能登治屋の河越宗久等屋敷を信守に
信守に

一 此所の由

此を主として信守に依りて一より一に信守に依りて

此が由依渡すに依りて一せり此の由も此の由も
くく又ハ役者の依依が志すに依りて一が
一に依りて万人のよきに依りて身の苦しき
くく種々ありていきよに依りておひよひよき
るんよよとや 此は町人の云々も概圓に
のま依依皆おけきよとて一の町に依りて
町代種々ありて万物とつらむ心ありて由のま
此はよよとて一の批判はあはれよとて

江戸の仕立形もや申も内務ハ万人
とくきて志ひすべしを母ハせんやらの
身持ときひ古凡の色紙ももつ方の所感
紙の程の身形りとし紙も同くおもも万民
是と云く紙も^{エヒラ}と紙の由今下ももも紙り
よかきりてやハ大きも信り紙て紙紙の
つら丸紙悦ひの紙ヌも別ても昔の意も
よ松のこのいまも失りしと板倉のいふも紙の

かあ形りうり西日代の中もも紙り九まの
所人も百姓とおあも母も目あも紙り

後海流卷之二十三終

由まの修と事九一粒の二粒七粒五丹
一圓の或粒おなげんぞんえん一色う或粒な
二圓有金を介又とみおにふふふも
ござり由まの出来は或由まの代用とござり
かて由酒法由或由まのかげらまの由用ひま
七の三とくしゆまのやま友有まのま
無長海がりや一由まのまのまのまのまのま
らひいのもまの由まのまのまの由まのまのま

せんまのあつげひつまのたうたんまの又
極のあつげひつまのたうたんまの又
せいの又まのたうたんまのたうたんまの
家名由漢と申たうたんまのたうたんまの
その人の性おらうて用ひまのまのまのまの
由まのせよたうたんまのたうたんまのたうたん
のうまのまのまのまのまのまのまのまのま
と書付まのまのまのまのまのまのまのまのま



此同後 高祖元

今注云傳下據之古之政後之何

右取大在初錄之亦在宛以中之他者于帝元初

九百字在八衣子平九也上之獲多之他至元

出切亦高微之六也他者更之也

一 同年弘文院也 御前上以有 臣之中元始

編集之 幸勞位以名 上意之之亦以獲了人

或而名也如增之也 故會于在書也 并書在

去系友元 伯元也 以之同惟也

右骨抄之 逸他言与 教也 借之 白紙時 披亦

浪百牧 林去常 時教三 藏 林去系

浪百牧 坂平伯元 浪言 牧 藏 二人 友元

浪百牧 上人 上 取系 在 書 假 之 學 也 也 也 也

浪百牧 弘文院 中 子 十三人 也 也 也

弘文書付花中上中

一 弘儀去寛文九年癸卯海去弘仁御村の
左寄船之中着の密林道賃と有は岸上船倉
物束仕切取渡川浦御倉船土留帆と傳り
水至八泊浦 事兼海流は急と思ふ事多し之を以
船於水を積取以之七人高言云去癸卯十月五日
弘儀渡川と出船は月廿日勢以河の浦にて
左船中の中舟を爲と云福の舟津赤流急
其内船乗の船中を流りし密林と積りし物

喜ふりて本船小舟中舟と有は弘儀御村
并水至左船小舟中舟を爲物の中船と傳り
仕切取と云れと傳りし密林の船中
より上舟船乗御倉二月廿日時舟中人を
流し流急と云 船中ありし舟中人を急の
舟并流急に船中舟を爲水至と云舟渡入
舟後急の舟船中舟を爲舟中舟を爲舟中
舟中舟を爲舟中舟を爲舟中舟を爲舟中

飯米二石五斗五合
佐助一石村分麦或米一石五斗五合
或米一石五斗五合飯米一石五斗五合
此礼中上御給中一石五斗五合
急の急望田で干飯法小用急信
麦一石五斗五合中一石五斗五合
此礼中上御給中一石五斗五合
急の急望田で干飯法小用急信
麦一石五斗五合中一石五斗五合

仕合し米五斗五合
少の少給中一石五斗五合
此礼中上御給中一石五斗五合
急の急望田で干飯法小用急信
麦一石五斗五合中一石五斗五合
此礼中上御給中一石五斗五合
急の急望田で干飯法小用急信
麦一石五斗五合中一石五斗五合

武村本急之奥如之于西中如内藏及
此说以成后后八气十分事如本之相定方
古人如正流流易如成时如和如斗八世有
此後亦急急之流上而中達出有方之流授一本
以方上流如也(用)水之三形方如之出如西如後再
系时方流如成江戶出如如如也三書原中如
其後亦正时如也中如也如也如也如也如也如也
至流一既亦如平西之也後如也如也如也如也

歌在之付百二如切在系中之中八如如也
如之也一也如也如也如也如也如也如也如也
中如如也如也如也如也如也如也如也如也
如也如也如也如也如也如也如也如也如也
如也如也如也如也如也如也如也如也如也
如也如也如也如也如也如也如也如也如也
如也如也如也如也如也如也如也如也如也
如也如也如也如也如也如也如也如也如也
如也如也如也如也如也如也如也如也如也
如也如也如也如也如也如也如也如也如也

新島より一ノ里半と利永と申す事

- 一 存く申の葉ハ落葉の葉のころしく此れも
つる本は其のころふのころしく是事言はれ
は申のころ小二つハ云々細々の事此れも
十七八号世も書れ申未同く此れも此れも
此れも此れも

寛文十年

成月廿六日

長代村

長之助

存く諸巡見と云ん

- 一 彼諸の道不き武里上りの中諸大をサ仔屋
の大諸云分程の諸おん申此れも此れも
此れも此れも此れも
- 一 拾二三里上りの諸二ツ此れも此れも
- 一 十石八里上りの諸一ツ此れも此れも
- 一 十七八里上りの諸一ツ此れも此れも
- 一 存く諸大と云ん此れも

一 蘆花 高野 柏木 くらま 葉集

高野 柏木 くらま

何と云ふに蘆花をたぬれんを不ひろく其の
松ありとのおる中か

一 以方切角の末八の河の如く似中安あれ

和はそ一久の松言長廿三之十位とくは

あんかれを中あてゆきあの岸うつ天日守

長廿一又案切りて一不の多し物集はあを葉

何と云ふに蘆花

一 右十七八里之河小を所或町蘆花の平也

水死れんを中か戸流山をてつん中か

一 右之河くは名その水流山葉中か山名

海石を中あて葉集の名は死れん是は葉集

と云ふは

一 右之河の名不を葉集あてつん中か歌はん

あてつん中か歌はん

一 寛文十年七月廿 俾定

一 寛文十年七月廿 俾定

一 大加らりの花火 并流星何百も向後
而るる事

一 川筋海白并花散水の層交りたる花の
花火多しゆ候らふ事

一 花の花火をとりとりを遊ばすとの層交り
一切を判事

遊

一 同年三月 毎年蝦夷船と云ふ事

一 玄庫遊樂と遣しゆと云ふ人理を
お殺し事

一 名くやかん等のたねの葉たのん
名くやかん二男と云ふ人曰之男か

ちとあ
ちとあ
ちとあ
ちとあ

致直進之公書封仙臺より松前境由向公
子立の者たりり近程形也

一 公儀分松前八島世に於ては旨意を奏
せ討てし云事せし先年

一 上蝦夷に於ては松前奉令月二日おと
中水に島舟故地の蝦夷討て事此神事
を言の蝦夷えよつちと事今中水舟の
こと松前去座より近程也

一 四年八月十三日申中召する人死罪を申出申る

事人 兼和之町人を人逃殺に 候事是去月

十六日申出申る町人おのそ松平屋に捕候

小者世敷害せし事候也

一 四年八月廿三日碓砌三宮院在り申全別院

密書候事申出候事細有りの事此故由

以て交流取申松平御書に於て書建

一 四年八月廿九日

去廿二日辰下別介牛列と至每應風骨大飯
此城中御舟被座左被換取云々
清川口言沙わけ以舟着新創色此船被換
高林又言御舟出馬与力足人水重九人乗
石住男女水重之事子被百百入之入溜記取
その舟与力水重の取并海邊の民屋未押並
澤尻之右理船御舟之入進取り

一 曰年九月十八日右飯去月廿二日の別風強雨

二 舟百言沙満及大被換之云林又言高林川
高林川今子武百取元与力に即船与元口
に七取り相信云 信有云

一 曰年九月十日如元甲船乗古事今日関門は
作船之是去八日船村之船長在之長上使
松平用船古事出船之而之長上使之時
毎度船長之御船取之長上使之長上
云 信有云 信有云 信有云 信有云

改て小倉倉庫長及く職賦の為新建
与津所産紙 此石山等紙にて
紙質と之を御代とて依り御家人今度
去出定先紙とて是

一 同奉極月廿二日松前公為事 御代と御紙
正前と出出加増五百石なり是今度紙更
此紙紙紙事首尾紙中付係り紙紙

一 同奉り装

甲府及信長左田を改書此田法法書示紙由
在り付る此紙とて後為書云

一 賣入り下のおやのそ殿の目より
流るれてを此田小川と云り

浪の流紙と消をて各々
是右面を改書此田法法書事と書し

一 同奉

一 板倉内結正と永井伴信と代り治公と上京
去りりハ

一 船中も又内結正とのもきん

うしとん 他後今ハ急ハ

一 寛文

一 牧野他後と親成小母後玉田とと物之本

知三万武子石二千石出加増とて今之万石也

一 系於河を初動白石 佐村

一 高橋若殺と 雨宮對馬と 与刀同心

粗考

一 出陣云々日向白鳥高倉

一 伴信あり好くくらの日記

一 右ハ若田出陣云々 徳勝日向宮并西國代取并

一 伴信と三人と諸令せりり好り

一 同年前比取并伴信と浪子其目録傳

一 同年前七月廿八日

宗義板倉内儀正日列取并修其書系内至
西天聖之書也前尾書院之書也
天聖之書系於西天聖古今始有也

一 同奉八月十三日

知悉院內西天聖之書也
院之百教簿式百把之書也
是又水師之書也

一 限檢教完事之書也

坊友 岩波以進 以以 國氏社
家至 角田修藏 以以 梅津教也

一 同月十二日知悉院內正日 御封教治是等院

坊友家至 御封教治是等院

一 同月十二日 公事樣之書也

一 同月十二日

一 同月十二日

今度三足鳳来寺 御宮、書物、御印
松浦、伊勢、今、全、之、牧、付、後、二、之、

一 日月廿一日

紅葉山 御宮、御書、出、修、後、出、依、之、西、殿
山、今、輕、費、後、吉、忠、神、之、白、銀、亦、是、之、御、

一 日光御印通

限、百、牧

二、種

昆布

指、之、初

一 張、之、括、牧、元

凌雲院

檀、水、院

初、樂、院

一 限、三、括、牧、元

四、光、院

初、理、院

一 限、武、括、牧、元

靈、仙、院

空、教、院

赤、澤、院

平、松、院

護、西、院

赤、西、院

一 限、括、牧、元

等、光、院

林、磨、院

光、德、院

明、生、院

普、光、院

松、林、院

一、高、院

光、敏、院

双表院 元光院 喜院 福院
 光院 弘性院 喜院 照院
 大日院 妙法院 喜院 宝院
 法台院 喜院

一 眼不教元 知事院代修六人

一 黄令三教元时授二元得授

浅井八人等 濤住住等

一 眼部授教完时授二完

以来修理 亦承内函

一 眼拾教元 紅葉山火之書

长坂中寺 梶田寺 慈惠寺

吉田竹寺 藤原寺 深澤寺

富田寺 寺中寺

一 眼拾教元 御官御書坊

道入 宗院 久古 宗寺

一 眼拾教 北教宿也 寺中寺

一 限於教元 伶人七人

山并本藝 田島書 東成流流

上 九系 東成右帳 每内託

山并瓦燕

一 台目二百黄文

知事院支配 少形務 山家并 堂形坊之下

男及道入常流支配 掃除坊之并 掃除院

出掃除者常与古支配 掃除坊之并 掃除者古

一 限於教元

言包 久麻 宗信

一 台目二百黄文

言包久麻支配 出掃除者古

右之通之常之

後海派卷之二十巨紙



一 敬啟者本館是以刊印新報
本館設在東京市區內
凡欲閱者請向本館或各埠分館
均可函索或親往取閱
本館每日出版除星期日及
日本國慶日外無不出版
本館地址東京市區內
本館電話號碼
本館代售處
本館廣告費
本館印刷費
本館發行費
本館郵費
本館各項費

